風穴伝説

中仙町長野字風穴

長野山の北側の入見内川に向って絶壁の岩の切立ちに、大きな穴があり、冬は風が入り夏は涼しい風が出るといわれ、俗に風穴とよんでいる。ここには大むかでが住んでいたといわれ、このむかでが死んだ年は七日間この穴から火を吹いたと伝えられている。